

様式 1

県立下館第一高等学校【総合的な探究の時間計画】（令和8年度）

学校の教育目標

自主自立の精神を有し、地域のリーダーや国際社会で活躍する人財育成を目指し、生徒と教師がともに学び合う学校。

総合的な探究の時間の評価

目標と育成する資質・能力	学習評価	配慮を必要とする生徒への支援方法
<p>答えのない課題に対し、自らの興味・関心を原動力に論理的思考で探究し、その解決に向け、主体的、創造的、協働的に取り組むことができるように、以下の資質・能力を育成する。</p> <p>(1) 探究のプロセス（課題設定・収集・分析・表現）を理解し、自律的に活用する力。</p> <p>(2) 収集した情報を論理的に分析し、仮説に基づいて検証したり、他者との対話や助言を反映して自らの考えを再構築し、探究成果を論理的に発信したりする力。</p> <p>(3) 多様な他者と協働し、自己の在り方生き方を考えながら、よりよい社会の実現に貢献しようとする姿勢。</p>	<p>①多面的な評価</p> <p>(1) ポートフォリオ（ワークシート、計画書、振り返りシート等）を活用し、学習の過程を評価する。</p> <p>(2) 生徒による個人内評価、相互評価、教員による評価に加え、大学教員等の第三者による客観的評価を行う。</p> <p>②成果物の活用</p> <p>探究ポスターや探究報告書（論文）を作成し、ルーブリックに準拠した評価を行う。</p>	<p>①対話型ゼミの推進</p> <p>ゼミ内での「対話」の時間を設け、進捗状況や困りごとを共有し、お互いに助言し合える環境を整える。</p> <p>②面談体制の充実</p> <p>ゼミ担当教員に加え、担任・副担任・教科担任・部顧問など職員全体でサポートにあたる。</p> <p>③専門機関との連携</p> <p>保護者や年次担当のほか、スクールカウンセラーや医療機関と速やかに連携して対応する。</p>

各学年における主な取組内容

「総合的な探究の時間」を課題研究等で代替している場合の科目名（ ）

学年	主たる探究課題及び学習活動	外部との連携	育成を目指す生徒像
1年	<p>①探究基礎： 地域の社会課題について、解決策等をグループで探究する。</p> <p>②探究前期： 各自の興味・関心に基づき、1人1課題で探究活動を実施。年度末に中間報告書を作成し中間発表会Ⅰを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、大学等から招聘した有識者を講師とし、指導・助言を受ける。 ・地域の行政や大学、地元企業と連携した探究プログラムの実施。 	<p>課題設定の仕方を学び、自らの興味・関心に基づき主体的に動き出す生徒。</p>
2年	<p>探究後期Ⅰ・Ⅱ： 1人1課題による継続的な探究活動。前期末に中間発表会Ⅱ、年度末には全体発表会（ステージまたはポスター）を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学教員や外部講師による客観的評価の実施。 ・地域の行政や大学、地元企業と連携した探究プログラムの実施。 	<p>他者との対話を通じて多角的な視点を得、自らの探究を深化・再構築できる生徒。</p>
3年	<p>進路探究： これまで取り組んできた探究活動を振り返り、その成果や課題、身に付いた力を整理するとともに、自己の興味・関心を進路選択及び大学等における学びへと接続させる。あわせて、探究活動等の経験をもとに、「学びの設計図」を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学教員や外部講師による講演会等の実施。 ・卒業生や教育実習生との情報交換会、相談会の実施。 ・外部模試の実施。 	<p>探究の過程を「自分のコトバ」で語るができる。また、その経験に基づいた進路目標が明確で、目標実現に向けて主体的に取り組むことができる生徒。</p>